

# 三鷹を包含多義的に

文人の  
武蔵野

「三鷹の田舎、包みに三つ、  
家内の形見」

村上春樹の「またたび浴び  
たタマ」に収録された回文で  
す。妻の形見が実家のある三  
鷹の田舎にあります。包みに  
して三つ、まだ開けられてい  
ません。夫は後ろめたいので  
しょうか、なかなか取りに行  
けずにいます。中身は何でし  
ょうか。考えるだけでも「恐

## 村上春樹 ②4

いですね」という言葉が付さ  
れています。

春樹ファンにとつての東京  
の聖地といえは、店主をして  
いたジャズ喫茶ピーター・キ  
ヤットのあった国分寺、ヤク  
ルトスワローズへの愛を語る  
中で出てくる外苑前の神宮球  
場、学生時代を過ごした新宿、  
西早稲田あたりでしょうか。  
そのほか、「村上朝日堂」  
などのエッセーを読むと、1  
960年代末に都立家政の3  
畳間から三鷹のアパートに引  
越したときの様子などが細  
かく描かれています。都立家

三鷹市にある雑木林



政の下宿の「まわりは絵に描  
いたみたいな大根畑」で新た  
な東京を発見した気分になっ  
たようですし、三鷹は「空気  
がきれい」で「武蔵野の雑木  
林がまだ自然のまま残って  
い」て「すごく気持ちが良い」  
ところだと記しています。

作家にとつてのゆかりの地  
だからといって作品に登場す  
るとは限りませんし、作品に  
登場しても、そこが作家ゆか  
りの地であるとみなせるわけ  
ではありません。村上春樹の  
作品に登場する地名の中に  
は、未訪の地もあります。

ただ、長編小説「羊をめぐ  
る冒険」における表象から考  
えても、三鷹は重要なトポス  
(場所)だと思えます。でも  
それ以上に重要ですが、見落  
としやすいのは三鷹を包含す  
る「武蔵野」イメージです。  
「武蔵野のありくい」の登場  
によって、村上春樹の文学に  
おける「武蔵野」の多義的な  
記号性がより決定的になった  
といえます。

「文人の武蔵野」でそのこ  
とを論じているのと並行して  
「夏帆」の改稿版が発表され、  
「夏帆とシロアリの女王」も  
出ました。まもなくその続編  
も出るでしょう。

物語主義者としての中村三  
春が指摘するように、村上春  
樹のすべての長編小説は「全  
体としてへ一つのテクスト」  
を形作っている」のです。

(敬称略) (了)  
(武蔵野大教授、むさし野文  
学館館長・土屋忍)

過去の連載は、読売新聞オ  
ンラインでお読みい  
ただけます。スマー  
トフォンはQRコー  
ドから。